

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00525

研究課題名（和文）20世紀転換期の渡米者による詩学と宗教意識の融合と伝播：佐々木指月を軸に

研究課題名（英文）The Blending and Spreading of the Poetics and Religions: Cultural Exchange Centering on Shigetsu Sasaki

研究代表者

堀 まどか（HORI, MADOKA）

大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：20586341

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：佐々木指月とその周辺の渡米経験者の活躍と表現について実態を検証し、日米の詩学と宗教意識の融合と乖離を検証した。20世紀初頭に詩人や芸術家を志した渡米者は、同時代の欧米人がみていた東洋的宗教（仏教や禅、そしてヨガなどの身体を含む哲学など）や神秘主義的志向と密接にかかわって、文芸活動や芸術表現をおこなっていた。それは同時代の日本側で求めていた社会改良論的理念や社会主義理念とも抵触し、日本国内の詩人たちの思想面やモダニズム理論面にすくなからぬ作用を及ぼした。コロナ禍で制限はあったが、佐々木指月のみならず、木村秀雄の実践的布教活動や、愛宮ラサール真備による禅布教についても研究をすすめ、成果発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、20世紀初頭の東洋の宗教哲学を下敷きにした芸術文芸の東西の文化交渉史上の実態と意義を解明するための基礎作りとして学術的意義があった。越境文化人たちの活動と存在は、国家と国家の境界で、学術ジャンルの境界で、見過ごされがちであった。このような境界者の文献や活動記録を発掘し、日英両言語の表現レベルから再検証して学際的視点から再評価することは、従来の日本近代文学史を再編成することに繋がる。これはグローバルな社会構造と多文化共生を強いられている21世紀の現在、迅速に求められている作業であり、複雑化する今日のさまざまな課題と新世代の人文教育に、多くの示唆を与える歴史観と視野を導くものである。

研究成果の概要（英文）：This study examines the activities and expressions of Shigetsu Sasaki and other Japanese who had travelled to the US, and explores the fusion and gap between poetics and religious consciousness in Japan and the US. Japanese poets and artists who came to the USA at the beginning of the 20th century were engaged in literary activities and artistic expression closely related to Eastern religions (Buddhism, Zen, and spiritual philosophies such as yoga) and mystical orientations as seen by their Western contemporaries. This trend also conflicted with the social reformist and socialist ideals sought by the Japanese contemporaries, and influenced the modernist theoretical aspects of the Japanese poets.

Research in Japan and abroad did not proceed as planned due to travel restrictions imposed by the coronavirus. However, the research of Shigetsu Sasaki, Hideo Kimura and Makibi Enomiya-Lassalle was able to make significant progress.

研究分野：比較文学比較文化、文芸文化交流史、詩と宗教

キーワード：日本とアメリカ 詩文芸 宗教文化 禅仏教 オリエンタリズム モダニズム ジャポニズム 越境者

### 1. 研究開始当初の背景

佐々木指月については、これまで、アメリカの弟子達による講話記録や自叙伝の編纂があり、禅僧としての立場を紹介する研究が僅かになされたことがあった。だが本格的な全体像がまったく解明されておらず、とりわけ彼の日本語の多彩な著述活動をふくめた調査は一切存在しなかった。

本研究と関連する国内外の研究動向としては、欧米での仏教や禅の流行や国際ネットワーク、ハワイ移民と仏教布教の実態を解明に関する研究が最近になって急速に進展しており、また国際的にも、ドイツやイギリスでは、日本の初期近代仏教者の研究や神智学のネットワーク組織への関心が進んでいた。本研究はそれら宗教学や禅仏教の側面からの研究の動向を認識・理解しながらも、文学や詩学の立場で捉え直していくという点で、東西交流史の再考に新機軸を打ち出すものであった。以前には、大正期の日本文壇においては、欧米の潮流を受けて生命主義や生命哲学が隆盛であったという文学史の解釈が示されたことがあったが、本研究は、大正期の日本文壇が、欧米の近代オカルティズムやアメリカの新興宗教運動、それにもなう種々の思想系統の導入が、越境日本人の介在を通して隆盛をきわめたという点からの再検討で、一国文学史観を超越する新世代の実践的文学史観を示す位置付けとなる。つまり本研究は、展開が求められている複数の学術領域を単に融合することを目的とするのではなく、学融合的かつ比較文学・比較文化の観点からの史的再編をうながす礎をつくることを目的にするという、位置付けをとろうとした。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、①佐々木指月とその周辺の渡米文化人の活躍と表現と思想の内実を検証し、日米の詩学と宗教意識の融合と乖離を検証し、地図化すること、②東洋の宗教哲学を下敷きにした芸術文芸の東西の文化交渉史上の実態と意義を解明するための基礎をつくること、であった。20世紀転換期に詩人や芸術家を志して渡米した日本人は、同時代の欧米人がみていた東洋の宗教（仏教や禅、そしてヨガなどの身体を含む哲学など）や神秘主義的志向と密接にかかわって文芸活動や芸術表現をおこない、またそれは同時代の日本側で求めている社会改良論的理念や社会主義理念とも抵触して、日本国内の詩人たちの思想面やモダニズム理論面に作用を及ぼした。

本研究が中核とする佐々木指月（彫刻家→詩人→禅の布教者）は、このような背景下で重要な役割を果たした人物であるが、現在はまったく知られていない。渡米経験者の行動と文芸表現は、日米両社会にどのような形で発信され、いかに受容され拒絶されたのか。本研究の方法は、文学と宗教の分野にまたがる形で活躍した佐々木指月とその周辺人物らの文芸思想と宗教意識と行動について、移民社会で発刊されていた新聞雑誌や同時代の地方誌を精査し、並行して日本文壇との同時代的接触について雑誌・書簡類から洗い出し、日米の詩学と宗教意識の融合の度合いとその伝播のありようを把握しようとした。

### 3. 研究の方法

複合的な領域を融合して発展を見通し、国内外の各地に散らばる資料を発掘して実践的に調査をおこなう点で、申請者の現在までの比較研究の関心体系や知見的な蓄積や比較文

学の方法論的経験を生かすことができる。文芸芸術の文化交流史のなかで、20世紀転換期の比較宗教学や東洋への関心が詩学にどのように作用しているかを、各地の文献調査から探る方法をとった。

#### 4. 研究成果

佐々木指月や周辺の渡米経験者の活躍と表現について実態を検証し、佐々木の執筆内容や表現形式が、同時代の大正昭和の文壇人のなかでどのように評価されていたのか、いかに特異な位置を占めていたのか、文学史上、非常に重要な存在であることを解明した。20世紀初頭に詩人や芸術家を志して渡米した日本人は、同時代の欧米人がみていた東洋的宗教（仏教や禅、そしてヨガなどの身体を含む哲学など）や神秘主義的志向と密接にかかわって文芸活動や芸術表現をおこなっている。それは同時代の日本側で求めていた社会改良論的理念や社会主義理念とも抵触し、日本国内の詩人たちの思想面やモダニズム理論面にすくなからぬ作用を及ぼしている。コロナ禍のために国内外調査の制限はあったが、佐々木指月と木村秀雄の活動とその同時代評価についての資料を多く発掘し、発表や報告を重ね、研究をすすめることができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 堀まどか	4. 巻 95別冊
2. 論文標題 越境する禅者・佐々木指月の文学的挑戦とその時代	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 宗教研究（第80回学術大会紀要特集）	6. 最初と最後の頁 55-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 末村正代、堀まどか	4. 巻 29
2. 論文標題 20世紀前半期の米国における仏教者リストー1930年代の日本人開教使による記録から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近代仏教（日本近代仏教史研究会編）	6. 最初と最後の頁 136 - 147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 堀まどか	4. 巻 74
2. 論文標題 戦後日本のシベリア体験の語りの特徴ー石原吉郎と鳴海英吉を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文研究（大阪市立大学文学部紀要）	6. 最初と最後の頁 60 - 78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 堀まどか	4. 巻 8
2. 論文標題 境界者の詩学と宗教ー佐々木指月の雑誌『詩聖』のなかのヨネ・ノグチ評	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Yone Noguchi Society Newsletter	6. 最初と最後の頁 3 - 6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 堀まどか
2. 発表標題 越境する禅者・佐々木指月の文学的挑戦とその時代
3. 学会等名 日本宗教学会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀まどか
2. 発表標題 佐々木指月の文芸とその文化的環境
3. 学会等名 阪大比較文学会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀まどか
2. 発表標題 ヨガはスポーツか？－アメリカ初期ヨーガ導師に出逢った木村秀雄・駒子夫妻を中心に－
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究会「文明としてのスポーツ / 文化としてのスポーツ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀まどか
2. 発表標題 境界者からまなぶ－文学から考える日本社会－
3. 学会等名 「アジア共同体論」第5回、東亜大学主催（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Madoka HORI
2. 発表標題 Literary Representation for Silence and "less"-ness on trans-national poetics
3. 学会等名 国際比較文学会 (ICLA・ジョージア大会) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀まどか
2. 発表標題 境界者の詩学と宗教－佐々木指月のヨネ・ノグチ評価
3. 学会等名 第7回ヨネノグチ学会 (年次大会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀まどか
2. 発表標題 20世紀転換期の越境者たちと神秘主義の時代－野口米次郎とその周辺文学活動を中心に－
3. 学会等名 2022年度日本比較文学会・北海道大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 堀まどか
2. 発表標題 佐々木指月の宗教と文学の距離－禅、詩、ナンセンス随筆
3. 学会等名 文学と宗教シンポジウム「アメリカにおける越境者の文学 仏教との関わりから考える」
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 堀まどか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 216
3. 書名 野口米次郎と「神秘」なる日本	

1. 著者名 堀まどか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 255
3. 書名 『神智学とアジアー西からきた 東洋 』（分担執筆「7章・アメリカで秘教思想に出会った日本人たち」 pp.152 - 177）	

1. 著者名 堀まどか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 279
3. 書名 『宣教師の日本語文学ー作品と目録』（分担執筆「キリスト教と禅ーエノミヤ=ラサールのふるさと」 pp.149 - 171）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------